会議・イベントにおけるカーボン・オフセットに係る基準類の整理と課題

1. カーボン・オフセットに関する基準類とそれぞれの規定範囲と会議イベントに関連する事項

我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について(指針)

カーボン・オフセットの対象活動から生じる GHG 排出量の算定方法ガイドライ

カーボン・オフセットの取組に係る信頼性構築のための情報提供がイドライン

カーボン・オフセットの取組に対する第三者認証機関による認証基準

気候変動対策認証センター(4CJ)による第三者認証

我が国におけるわせか全般に関する考え方の整理と方向性を明示

(見える化⇒削減努力⇒クレジット購入等⇒埋め合わせのステップ)

オフセットの見える化に必要な算定方法を整理・明示

- II. カーボン・オフセットの対象となる GHG 算定方法に関する基本的な考え方
- 1. GHG 算定方法の選択
- 2. ガイドラインで対象とする GHG 排出量の算定分野及び算定範囲
- 3. ガイドラインに示すデータの位置づけ
- Ⅲ 各種の排出減(飛行機・旅客鉄道・家庭等)の算定式・レベル分けのディシジョンツリー

オフセット商品・販売等の際の情報提供方法・ルールの明示

- 第4章 会議・イベント開催オフセットの情報提供
- 1. インターネット等の通信販売
- 2.店頭販売
- 3.主催者及び関係者がオフセット料金を負担する会議・イベントオフセット

第三者認証スキームでの認証要件

※認証区分「I-2 会議・イベント開催オフセット」にて規定

- 2. 会議・イベントの実務との比較において課題が存在すると考えられる潜在的な個所
- (1) 会議・イベント準備段階において入手できる情報の量・質が限定されている(実際の想定と実施の際の情報量・質とのギャップがあることが多い)
- ⇒ 工場で生産される製品や繰り返し提供されるサービス等と異なって、事前の算定(見える化)の不確定要素が大きく、一つのハードルとなっている。
- (2) 会議・イベント実施段階において情報が入手できないといった事態がしばしば存在する。
- ⇒ 工場で生産される製品や繰り返し提供されるサービス等と異なって、事後の算定においては固有のデータの収集が困難な場合が多くある。
- ⇒ 時間的な限定範囲が大きい中で、関係者が複雑であることが、固有データの収集のハードルを高くしている。
- (3) タイミング・媒体等の制約条件から情報提供について十分に行うことができないことがある。
- ⇒ 会議・イベント自体の準備の過程と、オフセットの準備の過程が必ずしも同時に始まるわけではなく(多くの場合、オフセットは直前に決定することが 多い)、十分な形で行えない場合がある。